

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人郡山双葉会グループホームなごみ筒井
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	大和郡山市筒井町1535番地
記入者名 (管理者)	中村 太
記入日	平成19年 12月26日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	「お互いに支え合い、いたわり合う」ことの大切さを受け継ぎ、いきいきとした明るい地域福祉社会の増進に寄与する。という理念を作っている。		
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	ホーム内のリビングに提示している。		入居者の方々の尊厳を尊重しながら、穏やかな共同生活の場を提供していく。入居者の方々の持っている残存能力を最大限に利用して生活が出来るように支援していく。日常生活のなかで、役割を見つけ健康で健やかな生活が送れるように支援していく。
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	月1回地域の高齢者を対象とした「ほのぼのサロン」に参加し、地域の人々と交流を図っており、また、なごみ筒井をサロンの会場として、餅つきやレクリエーションを行ったりしている。		
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	近隣を散歩する時、気軽に挨拶したり、積極的に行っている。特定の人ではあるが、時々、野菜やお漬物など頂いたりしている。		ホームとしての行事にも隣近所の方々をお誘いしていきたい。近隣の児童(幼児)との交流も図って行きたい。
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	自治会に加入させていただき、「ほのぼのサロン」に参加したり、地域の祭りや老人会との交流、グリーンキャンペーンにも参加し、交流を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	以前ご近所からの要望により、応援に入ったことはあるが、現在は、具体的な活動はない。ただ、電話での入居の相談は随時受けており、見学も随時受けていて、他のホームの入居の空き情報を知っている範囲で情報提供したり、在宅サービスの紹介もすることがある。	○	運営推進会議を通して、自治会長始め、老人会長、民生委員の方々と話し合い深めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けることで、出来ていること、出来ていないことを整理することができ、見つめ直すことができる機会である。		改善が必要な部分は多いが、出来ることから早め早めに取り組んでいきたい。出来ている部分については、継続していくように努力していきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より開催し、2回経過したなかで出席者の方々から色々な意見が出て、サービスの向上に活かせるようにしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に行き来する機会はないが、運営推進会議前や必要な手続きがある度に、指導、相談を受けている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業の必要性を感じ、関係者と話し合いをもてるように支援している。	○	外部の研修会へ積極的に参加をし、職場内でも学習をしていく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全スタッフが虐待の防止に努めてはいるが、高齢者虐待防止関連法について、研修が組まれていない。	○	外部の研修会へ積極的に参加をし、職場内でも学習をしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に文章及び口頭にて理解、納得を頂けるように図っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者からの意見、不満等について傾聴し、常にオープンにし、反映できるように努めている。</p>		<p>警察や市役所、社会福祉協議会などに一緒に行き、納得できるように努めている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>健康状態等に変化が見られた時、随時報告を行っている。面会時に日頃の様子を報告している。職員の移動については、月1回発行している「なごみ便り」で報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を開催し、意見交換できる場を設けている。また、面会時に日頃の様子を報告している。全スタッフが出来る訳ではない。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の会議で、意見交換しながらスタッフで決めていくようにしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>1ヶ月ごとに勤務表を作成しているが、その月の計画等に基づいて勤務調整を図っている。</p>		<p>必要な時間帯にスタッフを確保するために、職員の募集を現在行っている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者の方々と関係を崩さないように、「あの方どうしたの。」と質問が出た場合、支障のない程度でその都度説明している。スタッフ間でも同じ解答ができるようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修について必要に応じて参加できるように、取り組んでいる。		ホーム内でも、外部研修を受けた人が発表できるよう研修会を開いていきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年設立されたグループホーム協会に加入しているが、交流する機会は持っていない。		今後、交流を深めて行きたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	特別な開催は行っていない。月に1回連休を取れ入れ、リフレッシュできるよう心掛けている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフ同士がまず、働きやすい環境を作り出し、外部研修にも参加して頂けるように取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	話しやすい環境作りを事前に行い、本人から出来る限り、困っていることや、不安、求めていることなどを聞きだせるよう傾聴に努めることで信頼関係を図っていく。情報の収集にも力を入れる。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族から困っていること、不安なこと、求めていることなどを、聞きながら、入居までの流れや体験入居の取り組みなどを十分に説明し、納得してもらうようにする。情報の収集にも力を入れる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームへの入居を希望していることを前提に相談を受けているが、必要に応じて他のサービス利用できることを説明し、サービスの紹介等に努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	スタッフや他の入居者と馴染めるように、体験入居を実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活のなかで、一緒に調理や畑作業をしながら、入居者の方から、スタッフが教えていただくという認識を持って、接し共感できるように努めていく。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居時の面接で、出来る限り情報集に努め、入居後4、5日後ぐらいに、ご家族に連絡を入れるようにしている生活の様子などをお伝えして、共有できる部分を見つけ出している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来訪時には、居室で過ごして頂ける様にしている。お茶をお出ししている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家庭から写真などを持って来て頂いたり、来訪時に写真を撮るようにしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士のトラブルの起こらないように、孤立しないように、スタッフの声かけやスタッフが間を取り持つように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	具体的な関わりはしていない。		利用契約が終了したご家族から、新規の利用者を紹介して下さる場合もあり、年賀の挨拶を毎年頂いているケースがある。定期的なお便りを送付していきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、希望を聞き入れるように、また、スタッフ側で質問を投げかけながら、コミュニケーションを図っている。そのなかで、希望や思いを実現できるよう努めている。		ケアプランに反映できていないが、今後、早急にしていきたい。
	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査で把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活のなかで、観察しながら個人記録に気づいたことを記録に取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行って、スタッフからの気づきについて意見交換を行っているが、ご家族や関係機関との意見交換は持たれていない。		入居事前調査やご家族からの情報収集を再度行い、アセスメントをきっちり行い、介護計画を作成していく。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月カンファレンスを行って、スタッフからの気づきについて意見交換を行っているが、ご家族や関係機関との意見交換は持たれていない。介護計画の見直しについて、間に合っていない。		目標の設定を明確に行い、介護計画の見直しを行い作成していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの結果等について、個人記録に記入しているが、変化等があれば、申し送りに記入したり、毎月のカンファレンスに話し合いを行っている。介護計画の見直しには至っていない。		介護計画に沿った記録の作成をしていながら、介護計画の見直しを行って行きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族の状況に応じて、医療機関への送迎、付き添いを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署には、防火訓練時に協力して頂いており、民生委員の方には「ほのぼのサロン」を通じて協力して頂いてる。同じ法人のふたば保育園、やまと保育園などとの交流を行っている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在特に行っていない。		本人の意向やご家族の意向などを踏まえて検討していきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	10月の運営推進会議では、認知症について説明して頂いたが、本人の意向や必要性に応じて、現在は関わりは持っていない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院等への送迎、付き添いもを行っている。		かかりつけ医の見直しを検討。歯科受診の検討

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて、専門医への受診をご家族に説明し、認知症に関して診断や治療が受けられるようにしているが、協力医療機関として連携はとれていない。		専門医との連携
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在、1名の入居者の方が月に2回訪問看護を受けており、健康状態をチェックしている。が、全入居者の方々には支援体制が取れていない。		今後、訪問看護ステーション等との契約を検討していきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	スタッフが交代で、殆ど毎日病院に出向き、状態の把握に努めており、ご家族と医療機関に早期退院ができるように、働きかけている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	心身の状況の変化に注意し、ご家族に連絡し、医師の指示を仰いでいる。		医療行為となると、看護師が不在な為、今後、訪問看護ステーション等との契約を検討していきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族、医師との連絡を密に取り、今後の対応については、医師の指示を仰いでいる。		事業所として、何が出来るかスタッフ間で話し合い、かかりつけ医と連絡を図っていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所先への情報提供をすることを、ご家族様に納得していただけるように説明し、スムーズに別の居所先へ行ける様に、努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>馴染みの人間関係で蓄積された声かけについては、成立する場合もあるので、それ以上の声かけはしないように努めている。</p>	<p>自尊心を傷つけないように努める。記録等の管理について、食堂やリビングなど目につきやすい場所には絶対置かないようにする。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日々の会話の中から、入居者の希望や思いを聞きだせるように心がけ、自己決定出来るようにしている。</p>	<p>自己決定ができるように、いくつかの選択肢を用意して、じっくりとあせらず、自己決定ができるように取り組んでいきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の流れは、ある程度決まってはいるが、一人ひとりのペースを尊重している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>散歩を兼ねてホームの近所の美容室を利用している。近隣との関係は構築しつつあるが、本人の希望には沿っていない。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者の力を活かしながら、調理や盛り付け、食器拭き等スタッフと一緒にしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>外食会を定期的に設けて、好きな物を選んで頂く様支援している。スタッフと一緒におやつ作りに参加して頂いてる</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表で個々の排泄パターンの把握に努めており、おむつ使用者へは、定期的な声かけし誘導をしている。		オムツの使用を減らして行く為に、早目のトイレ誘導を心がけいきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本来、夕食後に入浴していただくことが理想だが、なかなか難しい問題もあり、入浴時間については、スタッフの都合で決めてしまっている。入浴が楽しめるように、入浴剤の使用や入浴を希望される方については、できる限り入浴していただくようにしている。		夕食後の入浴について検討していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	状況に応じて居室で横になってもらったり、お昼寝を取り入れたりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯干しやたたみ、調理の準備や食器拭き、後片付けなどできる範囲で協力して頂いている。また、個々の入居者に対して趣味や特技を活かしていただけるように支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの買い物に行く時、時々、支払いをしていただくようにしている。現在、殆どの入居者の方々のお小遣いについて事務所で保管しており、ご自分で管理されている方もおられるが、支援できていない。		買い物時、個々にお小遣いを持参していただき、好きな物を購入していただくように支援していきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候のよい時は、近隣散歩に出かけるように努めている。季節に応じて、車で花見や公園等に出掛けられるように支援を行っているが希望に沿っては出来ていない。		スタッフ側での外出になってしまっているので、希望を言えるような雰囲気作りを行い、何箇所か行き先を決めて希望を募るような取り組みもしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族の方々との外出については、積極的に出掛けて頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、自由に電話を掛けて頂いている。ご家族からの電話の取り次ぎも行っている。手紙の代筆や投函したり、支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設けていない。居室でゆっくり過ごしていただく様にお茶の接待を行っている。また、おやつ時間に食堂に出向いてもらい、皆様に紹介しながら、楽しくすごしていただく様に、工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	大まかな身体拘束について理解しているが、詳細については、具体的な取り組みができていない。		身体拘束のないケアについて、外部研修に参加して行きたい。マニュアルの作成も行いたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉については、施錠していることが殆どで、事前に来訪があるとわかっている時など開けるように努めている。玄関の鍵については、施錠しないように努めている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	できる限り、日中はリビングや食堂で過ごしていただく様に、声かけをしている。歩行時不安定な方には居室までの間、見守りしながら安全確保に努めている。夜間は1時間に1回見回りの徹底を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品については、例えば、包丁や裁縫道具、はさみなどについて、事務所預かりとする。園芸用品(鋏)については、入居者の状態に応じて対応している		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットのノートを作成し、転倒防止に努めている。火災に対して、避難訓練を毎月行っている。また、消火訓練時、避難訓練含めて、消防署の指導のもと行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応について、今まで、救急車の出動を要請していた。定期的な応急手当や初期対応の訓練は行っていない。		消防署や日赤などで、実施されている講習会に参加し、取り組んで行きたい。また、マニュアルの作成にも取り組んで行きたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災の訓練は、消防署の立会いのもと、指導を受けて訓練を行っている。また、月1回避難訓練を行っている。地震や水害については行っていない。		避難訓練について、今後、地域の方々にも協力が得られるように働きかけたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態に応じて、その都度報告している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、顔色や表情などを観察しながら、早めの医療機関への診察を行い、申し送りにて情報を伝えている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋があり、理解できるように努めているが、全スタッフが理解できていない。服薬の支援について、薬を渡してから、最後まで確認するように努めている。		個人ファイルにて処方箋があり、全スタッフが確認するように徹底して行きたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表で各個人の排泄を確認し、腹部マッサージや運動などを取り入れながら、工夫している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減やコレステロールに注意しながら調整している。食事量や水分量は毎食チェックしており、水分量に関しては、水分補給の重要性を説明しながら、摂取できるように支援している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防の取り決めは作成していない。手洗い、うがいの実施、食事前の消毒の実施は行っている。インフルエンザについては、ご家族の同意を得て、入居者の方は予防接種を実施している。		外部研修に参加し、感染予防についてのテキストを回覧できるようにしているが、その他に感染予防のマニュアルを作成していく。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	宅配業者から食材を注文しており、冷凍、冷蔵、乾物に再度仕分けし速やかに保管している。調理をする前は必ず手洗いを実施している。また、フキンや調理用具は除菌している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りの掃除や草むしりを行っている。外部からの不審者の侵入を避ける為、門扉を閉ざしているが、時々門扉は開放するように努めている。入居者の方が育てた花を玄関に並べている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて、玄関や食堂に植木鉢や花を置いている。夏場には、洗面所には西日が差し込むため、すだれを利用して防いでいる。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いて自由に座れるようにしている。また、一人の時間を好む方には、居室で自由に過ごして頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを自由に持ち込んで頂く様にしている。また、ご家族と相談しながら、入居者にあつた居室の雰囲気になるよう、協力頂いている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	極力換気に努めており、エアコンや床暖房での温度調節は、スタッフが行っている。夜間、居室の温度調節は、入居者の就寝時間に合わせ、エアコンのタイマーを使用してスタッフが行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関からリビング、リビングから食堂には、階段や段差がありバリアフリーになってはいないが、随所に手摺を設け、自立した生活が送れるようにスタッフが配慮している。リビングから各居室にはバリアフリーとなっており、車イス対応のトイレも設置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	洗濯物を干しやたたんだり、調理や盛り付け、食事の後片付け、下膳など混乱しない様に、スタッフが時見本を見せながら、できる限り残存能力を引き出すように心がけている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	入居者のなかで野菜や園芸を趣味としている方がおられ、裏に畑を作り季節に応じて野菜など栽培し、入居の皆様で収穫している。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域との交流で、月1回のほのぼのサロンに積極的に参加している。同じ法人内で保育園児との交流を毎月行っている。車2台利用して、昼食のお弁当を作り外出している。